

「通訳案内士の現状と課題」

True Japan Tour 株式会社
日本文化体験交流塾

1 通訳ガイド制度のあり方に係る調査の実施

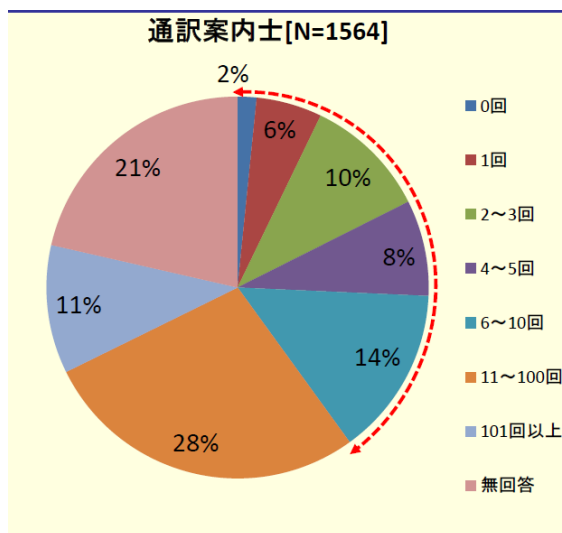
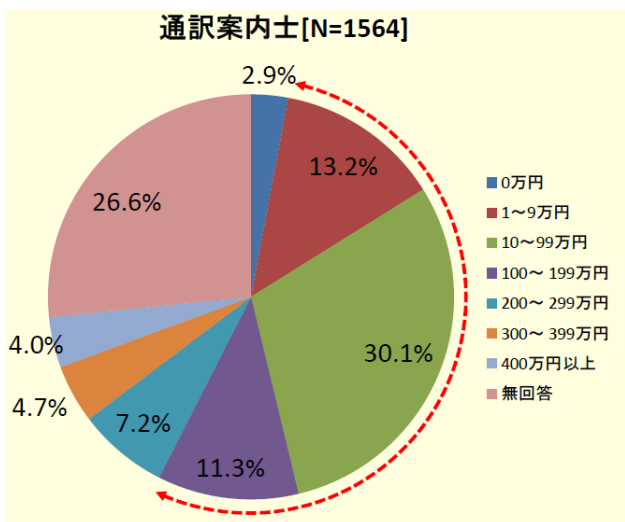
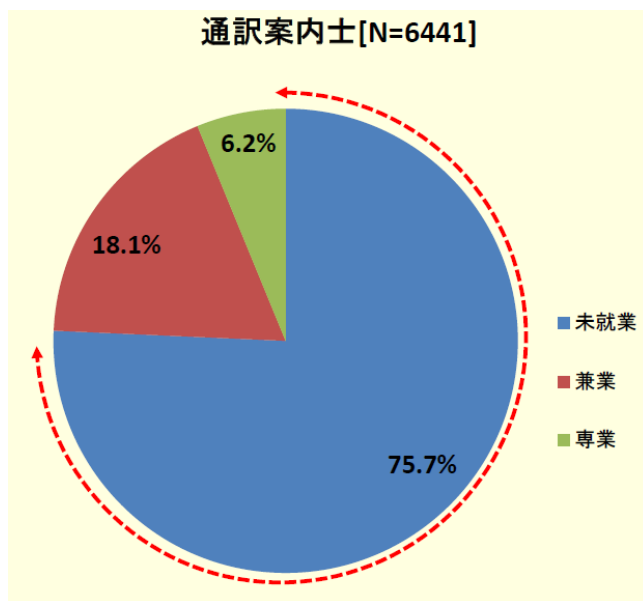
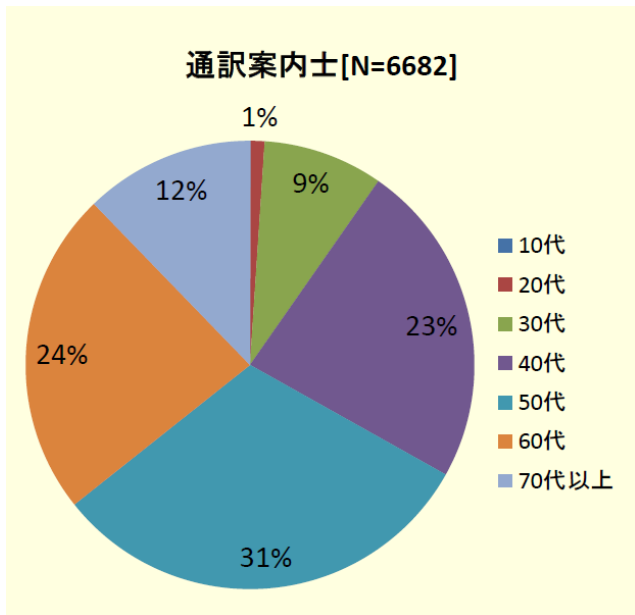
これまで観光庁が実施したガイドに関する主な実態調査は、以下の2点である。

このデータを踏まえて、新たな調査票を作成する。

| 調査名 | 実施時期 | 回答数 | 主な調査項目 |
|-----------------|---|--|--|
| 通訳案内士の就業実態等について | 平成26年(2014年)12月発表 回収時期： 平成25年(2013年11月末日) | 通訳案内士に対する調査 ・回答数： 【通訳案内士】6,705通（回収率58.4%） 【地域限定通訳案内士】173通（回収率74.6%） 【特区ガイド】50通（回収率73.5%） | ①通訳案内士の就業実態 ②通訳案内士の稼働実態 ③訪日外国人客の動向 ④兼業者・未就業者の実態⑤業界団体への所属状況 ⑥研修・自己研鑽 |
| | | 通訳案内士受験者に対する調査 ・4,090通 | |
| 外国語ガイドの実態把握調査 | ・令和2年(2020年4月) | ・回答数 68人 | ①外国語ガイドの全国分布と訪日外国人の訪問エリア②年齢、ツアー時間、地域分布 ③外国語ガイド（有償）が得意なツアーのジャンル1. ④訪日外国人が求めるガイドツアーのニーズ |

※平成21年6月、通訳案内士就業実態等調査の事例が

平成26年「通訳案内士の就業実態等について」のポイントは、以下のとおりである。



2 通訳案内士の魅力発信

コロナ禍で専業として働く通訳案内士が減少していると想定されるなか、通訳案内士の新たな担い手を確保するため、その魅力を効果的に発信する方策の提案を行うこと。

その際、副業としての資格取得促進も含めた提案を行うこと。

◎通訳ガイドの就業機会の増加、活用促進に繋がる施策の検討今回の調査項目については、旅行会社の経験や通訳案内士団体に対するヒアリングを踏まえ、以下のように論点を整理した。

| 項目 | 全体の問題点 | ガイドから見た問題点 | 旅行会社から見た問題点 |
|---------------------------|---|---|---|
| 通訳ガイドの就業機会について | <ul style="list-style-type: none"> ・就業機会そのものが、ガイド数に対して不足しているか。 ・今年の繁忙期には、ガイドの絶対数が不足した。 ・今年秋、来年春は、さらにガイド不足が予想される。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド謝金の水準が他の仕事と比較して安すぎる。 ・6月から9月、12月～2月は、就業機会が少なく、年間を通した収入が確保できない。 ・地方の通訳案内士の就業機会が少ない。 特に、クルーズ船など、季節的な需要が多い。 ・経験を積むチャンスが少ない。 ・中国語、韓国語など、アジア系の言語の通訳案内士の需要が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・3月、4月の繁忙期に、通訳案内士の絶対数が不足した。 ・クルーズ船のガイドが不足する。 ・富裕層、FITなど柔軟な対応力・高い語学力を有するガイドが不足する。 ・バスツアーなど、旅程管理能力のあるガイドが不足する。 ・お客様に柔軟に対応できるガイド、旅程管理のできるガイドの発掘・募集・アサインは、極めて困難又は、多くの手間がかかる。 ・ノンライセンスガイドの多くは、ツアーを任せるには不安がある。 ・フランス語、スペイン語などの少数言語のガイドが少ない。 |
| 活用の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・有資格者で他の仕事についている者を再度、通訳ガイド | <ul style="list-style-type: none"> ・謝金水準の向上 ・キャンセルの場合の保証の改善 ・オフ期の仕事の確保・ガイド業務の平準化 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本人を対象としてツアーに外国人も乗る混乗ツアーにおけるガイド業務の開発 ・通訳案内士団体等のガイド紹介機関の活用。 |
| 通訳案内士の資格を持たないガイドに対する活用促進策 | <ul style="list-style-type: none"> ・訪日客の多様化が進みつつある。 ・ベトナム、インドネシア、マレーシア等からお客さまのガイドが不足してい | <ul style="list-style-type: none"> ・アジアから来た留学生等で、一定の日本語能力はあるが、通訳案内士試験の歴史や地理等の科目が難しく、通訳案内士試験をあきらめている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・留学生等の無資格ガイドに業務を依頼する場合があるが、日本文化に対する知識の不足、旅程管理能力の不足から、トラブルが発生しがちである。 ・クルーズ船等で通訳案内士の不足から、無資格ガイドを使う場合がある。語学力に加え、ホ |

| | | | |
|--|---|--|--|
| | <p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア系については、旅行会社としても、通訳案内士の資格を持たないガイドへの依存度が高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム語、インドネシア語、中東の言語など、そもそも通訳案内士試験がない。 | <p>スピタリティ、旅程管理の面で問題を起こすケースが多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山岳ガイド、ネイチャーガイドのなかに、英語の話せるガイドがいる場合がある。しかし、数が限られているので、団体予約等の場合に限られる。 |
|--|---|--|--|

3 民間の語学試験の調査(I)

国家試験に加えて、日本で行われている主要な4つの語学試験と、通訳案内士試験を比較する。

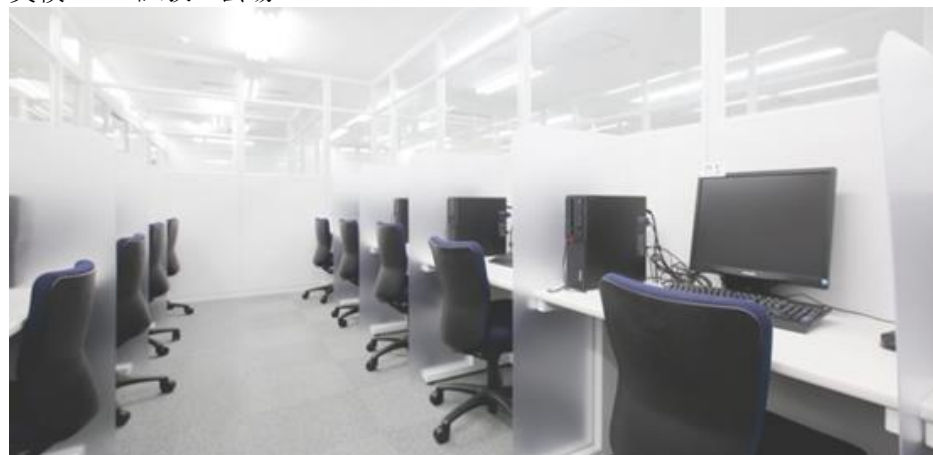
4つの語学試験と比較した通訳案内士試験の特徴は、以下のとおりである。

- ① 通訳案内士試験の受験者が3000名程度と、他の語学試験より、著しく少ない。
- ② 通訳案内士試験は、1次試験の受験科目が語学審査9科目、邦文試験4科目とあわせて、13科目と、極めて多い。
- ③ 受験料は、英検1級と同一である。英検1級も筆記試験と口述試験から構成されている。
- ④ 「TOEFL iBT」、「IELTS」、「英検」ともに、インターネット試験やコンピュータ利用による試験が実施されている。通訳案内士試験は、PBTである。

| 試験名称 | TOEFL iBT | IELTS | 英検 | TOEIC (L&R) |
|------------|---------------|---------|-----------------------|---------------|
| 試験目的 | アカデミック(留学等) | | コミュニケーション | ビジネスコミュニケーション |
| 主な受験者 | 大学(院)留学/進学希望者 | | 学生・英語学習者全般 | 大学生・社会人英語学習者 |
| 年間受験者数(国内) | 8万人程度 | 3~4万人 | 360万人(1~5級合計) | 210万人 |
| 点数範囲 | 0~120 | 1.0~9.0 | 1~5級 | 10~990 |
| 年間実施数 | 約80回 | 約45回 | 3回(PBT) 約60回(CBT) | 約10回 |
| 費用 | US\$245 | 25,380円 | 2,500(5級)~11,800円(1級) | 7,810円 |
| テスト時間 | 約2時間 | 3時間 | 100~170分 | 2時間 |
| テスト日数 | 1日 | 2日 | 2日 | 1日 |
| *方式 | iBT | CBT/PBT | PBT/CBT | PBT |
| 備考 | 自宅受験も可能 | | | |

*iBT:Internet Based Test CBT:Computer Based Test PBT:Paper Based Test

英検のCBT試験の会場



4 通訳案内士試験の受験者の推移

通訳案内士試験について、今後の在り方を検討するためには、今日の制度がどうしてできたのか。その経緯を理解する必要がある。

これまでの15年間の経緯を以下のとおり、4つの時期で整理する。

I 期 2007年～2010年

- ・訪日外客数は、678万人から861万人の間で推移した。
- ・通訳案内士試験の受験者数は、7000人から9000人の間で推移した。

訪日客に対して、通訳案内士は過剰気味で、試験に合格しても仕事がないとの声が多かった。

II 期 2011年～2013年

- ・訪日外客数は、621万人にまで激減した。東日本大震災の影響が大きい。2013年以降、訪日客の激増が始まった。
- ・通訳案内士の受験者は、4000～5000人台で推移した。
- ・クルーズ船などにより、地方での、特定時期の通訳案内士不足の問題が目立ち始めた。

III 期 2014年～2017年

・訪日外客数は、さらに激増し、2017年には、2869万人と、ビジットジャパンの目標値3000万人に近づいた。

・通訳案内士については、一次試験でTOEIC840点以上の免除制度ができたために、受験者数が急増した。

旅行会社、通訳案内士団体の事前ヒアリングでは、この時期の合格者のなかには、語学力の不足する者が散見された。

IV 期 2018年～2019年

- ・訪日外客数は、さらに増加増し、31,88万人に達した。
- ・通訳案内士の受験者は、2018年の制度改正以降、急速に減少している。

期 2020年～2022年

- ・新型コロナウイルス感染症による入国者の激減した。
- ・通訳案内士の活躍の場が激減するとともに、2018年度以降に実施された、邦文科目における点数調整の廃止により、試験の難易度が高まったとの声が寄せられている。

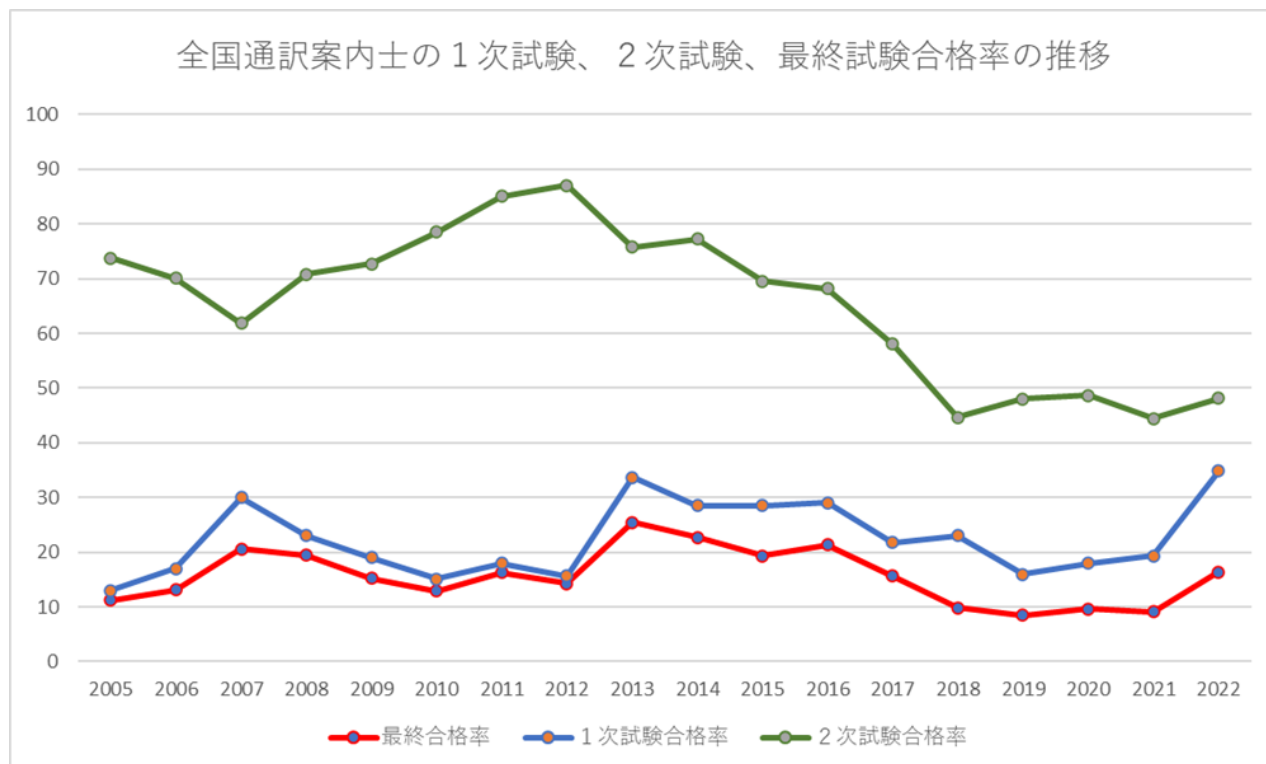
参考 通訳案内士のガイドライン（邦文科目における点数調整関連）

4) 合否判定

・筆記試験の合否判定については、科目ごとに合格基準点を設定し、すべての科目について合格基準点に達しているか否かを判定することにより行う。受験者には筆記試験の合否のほか、科目ごとに合格基準点に達したか否かを通知する。

・実際の平均点が、合格基準点から著しく乖離した科目については、当該科目の試験委員と試験実施事務局から構成される検討会を開催する。その結果、必要があると判断された場合には、合格基準の事後的な調整を行う。この調整は、平均点の乖離度及び得点分布を考慮して行う。

| 訪日外客統計 | | | 通訳案内士試験 | | | |
|--------|---------------|------------|---------|---------|-------|-------|
| 年 | | 訪日客数 | 受験者数 | 2次試験合格率 | 全合格者数 | 最終合格率 |
| 2007 | 平成 19 年 | 8,346,969 | 9,245 | 61.9% | 1,905 | 20.6% |
| 2008 | 平成 20 年 | 8,350,835 | 8,972 | 70.8% | 1,559 | 19.4% |
| 2009 | 平成 21 年 | 6,789,658 | 8,078 | 72.7% | 1,225 | 15.2% |
| 2010 | 平成 22 年 | 8,611,175 | 7,239 | 78.5% | 932 | 12.9% |
| 2011 | 平成 23 年 | 6,218,752 | 5,485 | 85.1% | 894 | 16.3% |
| 2012 | 平成 24 年 | 8,358,105 | 5,000 | 87.1% | 713 | 14.3% |
| 2013 | 平成 25 年 | 10,363,904 | 4,706 | 75.8% | 1,201 | 25.5% |
| 2014 | 平成 26 年 | 13,413,467 | 7,290 | 77.2% | 1,658 | 22.7% |
| 2015 | 平成 27 年 | 19,737,409 | 10,975 | 69.5% | 2,119 | 19.3% |
| 2016 | 平成 28 年 | 24,039,700 | 11,307 | 68.2% | 2,404 | 21.3% |
| 2017 | 平成 29 年 | 28,691,073 | 10,564 | 58.1% | 1,649 | 15.6% |
| 2018 | 平成 30 年 | 31,191,856 | 7,651 | 44.7% | 753 | 9.8% |
| 2019 | 平成 31 / 令和元 年 | 31,882,049 | 7,224 | 44.2% | 618 | 8.5% |
| 2020 | 令和 2 年 | 4,115,828 | 5,078 | 48.0% | 489 | 9.6% |
| 2021 | 令和 3 年 | 245,862 | 3,834 | 44.4% | 347 | 9.1% |
| 2022 | 令和 4 年 | 3,832,110 | 3,472 | 48.1% | 571 | 16.4% |



5 通訳案内士試験の問題点

2022年の通訳案内士試験では、大幅な赤字が発生したと言われる。2023年も受験者の増加は期待できないとの声が関係者から寄せられている。

2024年度の試験においては、受験料の引き上げは不可避と考えられるが、受験料の引き上げは、ますますの受験者離れを招き、試験制度そのものの存続が危うくなる。

そこで、当社の旅行会社及び通訳案内士団体からの事前ヒアリングにおいて、寄せられた検討課題を以下のとおり、参考までに列挙する。

| 事 項 | 説 明 |
|------------------|--|
| 広報の充実 | <p>◆通訳案内士試験の存在を知らない者が、まだ数多くいる。試験の認知度を高めていく。</p> <p>また、通訳案内士になるためだけでなく、一定の能力の実証としての性格を強調すべきと思う。若者・大学生の受験者を拡大し、以下のような企業への就職や転職のためのツールとしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルコンシェルジュ / 商社 / メーカーの海外営業 <p>◆現在、ノンライセンスで活動している外国語ガイドに受験を働きかける。</p> |
| 多すぎる受験科目がコスト増の一因 | <p>◆TOEICや英検が英語という単一言語の試験と比較して、通訳案内士試験は、試験科目が多く、コスト増の一因であると思う。</p> <p>① 1次試験と2次試験の2段階方式である。</p> <p>② 英語以外に、以下の8言語がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国語 / 韓国語 / タイ語 / フランス語 / ドイツ語 / スペイン語 ・イタリア語 / ポルトガル語 <p>以上の言語は、受験料VS試験コストの面で赤字要因となっている。</p> <p>③ 1次試験に4科目の邦文科目がある。本来ならそれぞれの専門家による問題作成が必要であり、問題制作経費が高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般常識 / 日本地理 / 日本歴史 / 通訳案内の実務 |
| 試験コストの削減 | <p>◆繁体字・ポルトガル語の試験免除の導入に合わせて、受験者数が少ない試験科目については、観光庁による筆記試験を廃止するなど、様々な経費削減策を検討してほしい。</p> <p>◆1次試験においては、OA機器活用した受験方式を検討してほしい。</p> <p>これにより、試験コスト削減とともに、受験機会の拡充を図ることにより、受験者数の拡大を図ってほしい。</p> |
| 2次試験の遠隔地受験 | <p>◆遠隔地受験</p> <p>2次試験の会場が東京と大阪、福岡に限られている。(英語、中国語、韓国語)</p> <p>その他の言語は、東京のみである。英語以外の受験機会を増加するために、ZOOM等によるオンライン受験を検討してほしい。</p> |
| 試験問題の見直し | <p>◆地理、歴史、一般常識については、高校の日本歴史等を学んだ若年層にとって受けづらい試験内容になっていると思う。</p> <p>通訳案内士として必要な知識を、観光庁において、明確にし、その理解力を判定するように、試験内容の見直しを図ってほしい。</p> |

| | |
|---------------------|---|
| <p>一次試験と二次試験の分離</p> | <p>◆一次試験と二次試験は、別々に願書を提出し、その都度受験料を支払う制度も検討してほしいという希望があった。</p> <p>結果として、値上げになるが、1次試験受験者にとって金額は同じなので、値上げ感が少ないのではないか。</p> <p>◆一次試験合格者は、一次試験の合格証書を発行してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 通訳案内士2級 <p>◆一次試験の合格者は、再度、1次試験を受験することなく、2次試験を受験することができる。2次試験合格者は、高い名称をつける。2次試験を何度でも受験できれば、受験総数は、増大する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例 通訳案内士1級 <p>◆これにバッヂを組み合わせて、2級は、ブロンズのバッヂ、1級は、ゴールドのバッヂなど、ステイタスを区分してほしい。</p> |
|---------------------|---|